

にしあいづ 議会だより

目次

9月定例会報告	2P
一般質問	6P
臨時会報告	15P
議会の動きなど	16P

簡単なようでとても難しい作業です。丸模様一つとっても納得して書けるようになるまでもう少しかかりそうです。(16ページに関連記事)

写真：中畑和香奈さん

令和元年度 決算を認定

9 月
議 会
定 例 会

9 / 4 ~ 11

町から提出された議案は、令和元年度決算の認定や条例の制定・一部改正、令和2年度補正予算など29件で、全ての議案を原案のとおり可決・同意しました。また、一般質問では8人が登壇し、町の考えや対応を問いました。



全会計の歳出総額は 92億487万円

令和元年度は、西会津町総合計画（第4次）の初年度で、町の将来像「笑顔つながり 夢ふくらむまち ~ずーっと、西会津~」を実現する各種事業について審議しました。

なお、決算の詳細については、町広報紙をご覧ください。

〈 決算全体への主な質疑 〉

委託事業の状況について

武藤 道廣 議員

問 ソフト面での委託事業が多いが、成果と評価についてどのように考えているのか。

答 ソフト面での事業成果と評価は、判断が難しいものの、評価シートを用いた事業検証を行い、長期的な視点に立った判断をしている。

財政健全化判断比率について

多賀 剛 議員

問 町の実質公債費比率と将来負担比率について、早期健全化基準を下回っているものの、微増傾向である。町では、どのような認識か。

答 近年の施設の大規模整備による公債費の増加が原因となっている。令和4年度をピークに減少していく見通しである。

繰越の影響について

小柴 敬 議員

問 歳出で翌年度への繰越額が5億147万円とあるが、予定されていた事業への影響はないのか。

答 繰越金は、令和2年度の繰越事業で順調に実施しているため事業への影響はないと考えている。

事務検査を実施（決議）

令和元年度決算における収入未済額は、7,855万円、不納欠損処分は、445万円となっていることから徴収事務などが適正になされているか本会議において検査した。

このような 質疑を経て 令和元年度一般会計 決算を認定

一般会計歳出決算額 61億6,555万円

西会津こども研幾塾事業



事業費 13万円

青木 照夫 議員

問 参加した児童と事業の内容は。

答 小学校高学年を対象に12人が受講した。歴史・文化・自然・産業を学ぶことを目的に地区の方からの講話や企業訪問など11回実施した。

防災行政無線デジタル化整備工事(繰越)



事業費 1億4,031万円

小柴 敬 議員

問 繰越分の工事の完了時期は。難聴地域の解消は図られたのか。

答 9月1日で完了した。難聴地域についてはスピーカーの出力や方向で解消に努めた。また、個別受信機を設置し対応した。

埋蔵文化財 整理等事業



事業費 294万円

多賀 剛 議員

問 埋蔵文化財整理等事業の内容は。

答 上小島遺跡、芝草・小屋田遺跡の遺物整理経費である。

給食調理業務 委託料



事業費 2,067万円

秦 貞継 議員

問 より給食を食べてもらえるための取り組みは。

答 アンケートなどを実施しながら、栄養士が日々研究を重ね提供している。

Jアラート 設定変更作業委託料



事業費 89万円

多賀 剛 議員

問 災害などで活用も可能な設定変更がされたのか。

答 システム更新の事業であり、災害対応は消防庁で実施している。

令和2年度一般会計 補正予算(第6次)を可決 4億3,738万円の増額

令和2年度一般会計補正予算(第6次)は、主に第3弾となる新型コロナウイルス感染症対策関連の事業、普通地方交付税の決定及び令和元年度繰越金の確定、7月の大雨に伴う災害復旧事業などの経費を計上。

また、国民健康保険特別会計7,356万円、介護保険特別会計4,719万円、水道事業会計497万円、下水道事業会計1,106万円が、それぞれ増額補正されました。

〈主な質疑〉

デジタル戦略調査委託料

武藤 道廣 議員



問 デジタル戦略調査委託の内容は。

答 デジタル戦略アドバイザーである会津大学准教授と調整の上、決定していく予定である。

ワークインレジデンス 整備工事

小柴 敬 議員



問 工事場所および工事内容は。

答 野沢・原町の旧野口燃料事務所を賃借し、事務所1階部分の整備、上下水道整備の予定である。

ふるさと応援寄附金

青木 照夫 議員



問 寄附額の増加が見られるが、新たな返礼品の追加などがあったのか。

答 米の返礼に寄附が集中していることを踏まえ、米の定期便をメニューに加えた。

令和2年度一般会計 補正予算(第7次)を可決 議会要望の457万円の増額

令和2年度一般会計補正予算(第7次)の主な内容は、議会が要望した季節性インフルエンザ予防接種事業の拡充(詳細はP16「議会の動き」)経費が計上されました。



条例の制定

■中小企業融資制度資金

利子補給基金条例

新型コロナウイルス感

染症対応地方創生臨時交付金を活用し、実施している「中小企業融資制度資金利子補給補助金」の財源確保に向け、本交付金を活用し基金を創設。

■小規模多機能型居宅介護施設条例

令和3年4月開所に向

け整備している小規模多機能型居宅介護施設の名称や位置、管理などを定める条例を制定。

条例の改正

■税条例の一部改正

国の令和2年度税制改正により、地方税法の一部が改正されたことに伴い、たばこ税率などを改正。

■手数料徴収条例の一部改正

法律改正に伴い、マイナンバー通知カードが廃

止されたことから、再交付手数料を廃止するための改正。

財産の取得

■小型バス（町民バス）

老朽化に伴う町民バス1台の更新。

【取得金額】

1320万円

【取得相手方】

有限会社斎藤オート

■小型バス（スクールバス）

老朽化に伴うスクールバス1台の更新。

【取得金額】

1012万円

【取得相手方】

有限会社斎藤オート

■輻射式冷暖房装置

野沢体育館に冷暖房設備を新たに整備。

【取得金額】

2948万円

【取得相手方】

株式会社渡部住建

指定管理者の指定

令和3年4月開所予定の小規模多機能型居宅介護施設の指定管理者を指定。

【指定先】

社会福祉法人
にしあいづ福祉会

【指定期間】

令和3年4月1日から
4年間

町道の認定

■町道原町北4号線

若者向け住宅の供用開始に合わせ、新たに町道に認定。

特別功労表彰者 決定の同意

■宮澤 秀夫さん（小屋）

町議会議員（3期12年）として、議会の伸張と町政の向上発展に貢献。

教育委員会委員 任命の同意

■平野 マチ子さん

（上野尻・再任）

■矢部 佳宏さん

（中ノ沢・新任）

請願の審査

■日本政府に核兵器禁止

条約の調印・批准を求める意見書提出に関する請願書

【提出者】

福島県原爆被害者
協議会
会長 木幡 吉輝

【審査結果】

継続審査

提出した意見書

■新型コロナウイルス感

染症の影響に伴う地方財政の急激な悪化に対し、地方税財源の確保を求める意見書

【提出先】

衆議院議長
参議院議長
内閣総理大臣
内閣官房長官
財務大臣

総務大臣

厚生労働大臣

経済産業大臣

経済再生担当大臣

まち・ひと・しごと

創生担当大臣

【提出者】

DAPPE（平和と平等を守る民主主義アクション）

代表 久保田 亮

継続審査

【審査結果】

継続審査

【提出先】

衆議院議長
参議院議長
内閣総理大臣
経済産業大臣
復興大臣



町政を問う

ここが聞きたい 8人が登壇

○青木照夫議員（7ページ）

- ①災害に強いまちづくりについて
- ②若者向け住宅について

○小林雅弘議員（8ページ）

- ①新型コロナウイルス感染症に関する追加対策について
- ②有害鳥獣対策について

○三留正義議員（9ページ）

- ①町道の改修について

○荒海正人議員（10ページ）

- ①西会津町デジタル戦略策定について

○伊藤一男議員（11ページ）

- ①森林資源活用による町の活性化について
- ②遊休施設の今後について

○多賀剛議員（12ページ）

- ①新型コロナ禍での各支援策の進捗状況と今後の対応について
- ②ふるさと応援寄附金について

○秦貞継議員（13ページ）

- ①町職員の採用について
- ②町の健康診断について

○上野恵美子議員（14ページ）

- ①乳幼児の健康推進について
- ②住宅整備事業について

※掲載ページは抽選による。

※掲載記事は2項目まで。

一般質問は9月7日から8日までの2日間で行い、議員8人が登壇して、町政の課題などを問いました。

質問順序

- ・小林 雅弘 議員
- ・荒海 正人 議員
- ・上野 恵美子 議員
- ・秦 貞継 議員
- ・伊藤 一男 議員
- ・三留 正義 議員
- ・多賀 剛 議員
- ・青木 照夫 議員

一般質問とは

一般質問とは、議員が町の事務の執行状況や将来の方向性について報告や説明を求め、町民のための適切な行政運営が進められているかをチェックするものです。

事前の通告に基づき質問

質問者は、議長の許可を得て事前に執行者に通告した内容に沿って質問することができます。

1時間以内なら何度も質問可能

論点および争点を明確にし、議論が深まるよう一問一答方式を採用しており、答弁を含めて1時間の時間内であれば何回でも質問することができます。

防災計画

問 災害に強いまちづくり対策は

答 地域防災計画に基づいて対応

会津地方は災害が少なくとされるが、近年、日本各地では予測のつかない大災害が発生している。

町民税務課長
東日本大震災や新潟・福島豪雨災害などの

町民税務課長
災害に即応できるよう、現在、関係する17

町民税務課長
午前0時ごろに避難勧告で施設を設け、職員が待機していたが、避難された方はいなかった。

町民税務課長
町が所有するドローンは、国土交通省の飛行マニュアルに定める訓練や遵守事項にのっとり運用している。ドローン

町民税務課長
喜多方消防本部でドローンを持っているの

問
土砂災害や山崩れ、道路の途絶などが生じた場合に備えての建設業組合との協定締結や、東日本大震災で自動車や公共施設などで燃料不足が起こり大混乱したが、その後、燃料業者との協定締結などどのように進めたのか。

町民税務課長
また、建設業では西会津建設業組合と、燃料業では福島県石油業商業組合西会津支部と応援協定を平成27年6月27日に締結した。

町民税務課長
緊急の災害時には、関係団体、業者などと協定を結び、対応できるように取り組んでいる。

町民税務課長
「災害時に逃げ遅れを防ぐ」ため、避難勧告を廃止し、避難指示に一本化するのとことだが本町の取り組みは、

町民税務課長
町が所有するドローンは、国土交通省の飛行マニュアルに定める訓練や遵守事項にのっとり運用している。ドローン

町民税務課長
喜多方消防本部でドローンを持っているの



青木 照夫 議員

町民税務課長
建設業組合員ではなく、重機を持っている業者など、災害時は応援などが必要ではないか。

町民税務課長
町民が分かちやすく、確実に避難行動がと

町民税務課長
今後、状況を判断し対応する。

町民税務課長
災害時にドローン

町民税務課長
災害時に家屋の崩壊で、行方不明の方をドローンによって捜索するなど、消防団本部で他に先駆けて積極的に取り入れる考えはないか。



崖崩れ、土砂災害などが心配される道路



ドローンで、危険箇所を把握する



小林 雅弘 議員

新型コロナ対策

問 インフルエンザ予防接種に助成を 答 他市町村の動向を踏まえ検討する

全国的に新型コロナウイルス感染症が広がりをみせている。会津においても感染者が確認されている。

再度、緊張感をもって、今までの対策状況を確認するとともに、新たな対策の必要性があると考え、町の考えを問う。

問 学校の換気対策。各教室の換気対策として「換気のできる最新のエアコン」の導入を検討してはどうか。

答 学校教育課長
平成26年度に中学校の熱中症対策の一環として、近隣市町村よりも早く各教室などに空調設備を設置した。

小学校においても平成27年度、空調設備を設置し、小中学校ともに冷暖房設備を設置してから5年ほど経過している。

空調設備の標準的な耐用年数は15年であり、今後約10年以上は使用できる見込みである。

換気については、空調

設備と送風機を併用した換気対策を実施することとした。送風機による密閉対策を行っていくことから、換気のできるエアコンを導入する予定はない。

問 インフルエンザと新型コロナウイルス感染症の流行が重なった場合、医療現場に混乱が起きる可能性があるため、インフルエンザ予防接種への助成を検討してはどうか。

答 健康増進課長
19歳から64歳までのインフルエンザ予防接種の助成については、任意接種であることを基本とし、医療機関の負担軽減の観点から、他市町村の動向を踏まえ検討する。

有害鳥獣対策

問 クマやイノシシの解体施設が必要では

答 解体処理施設の必要性を検討

今年は、クマの目撃情報が多く、全国でも被害が報道されている。町としても対策のため予算を増やし、電気柵への補助、ワナの購入、狩猟免許取得への補助など積極的な方策を打っている。

このような町の施策に対して評価するところである。そこで問う。

問 クマやイノシシなどは、「胃の内容物調査」「放射線量の測定」そして、何よりも「焼却処分」のために解体する必要がある。しかし、町には専用の解体処理施設がなく、猟友会員の敷地を使って解体作業を行っている。駆除した後の「解体処理施設」が必要と考えるがどうか。

答 町長
町では駆除後の処理について、解体を必要としない埋設処分を原則としている。しかし、最近では解体した上での焼却処分が増加傾向にある。焼却処分する際は、燃えるごみの袋に入る大きさに解体して、中身が見えないように配慮する必要がある。

猟友会員の高齢化が進んでおり、埋設するため穴を掘る作業が困難になってきていることから、現在の埋設処分の原則を転換し、焼却処分を原則とできないかを検討しているところであり、併せて解体処理施設の必要性について検討を進めている。

問 駆除した有害鳥獣を埋める場合、埋める場所と埋めるための重機が必要となる。町が用意すべきと考えるがどうか。

答 町長
猟友会からその要望もあったが、町有地で埋設に適した場所がなく、猟友会各分会にお願いしているのが現状である。捕獲後の処理については猟友会と協議しながら検討していく。



田の際の林に現れたクマ

町道整備

問 野沢町内の町道改修は

答 補修中心に取り組んでいく

問 野沢中央線をはじめとする、野沢町

内の町道の劣化などについて、議会で幾度となく取り上げられてきたが、その後の方針について伺う。

答 建設水道課長

現在のところ、野沢中央線・本町中央線ともに損傷は限定的なものに留まっているため、国土交通省道路局所管の交付金事業の対象外になっている。（※路線の面積の50パーセント以上が「ひび割れ」や「わだち掘れ」

などになっていれば該当する）

道路整備は町づくりの基本であり、今後とも有利な補助・交付金事業の活用を検討するとともに、当面は、町の単独費でできる範囲の修繕を行い、適切な道路の維持管理に努めていく。

答 町長

これからの新しいまちづくりをする上で、道路網をしっかりと整備することが大事である。これから現地をしっかりと調査して、検討していく。



三留 正義 議員

一般質問



きめ細かい補修が求められている



荒海 正人 議員

問 デジタル戦略による町政への効果は

答 全課横断的に先行事業なども実施

人口減少や少子高齢化などの社会課題がより顕著になるうとしている中、課題の見える化や施策の最適化に向け、デジタル技術の活用が期待されている。

今後、町デジタル戦略が策定されようとしている中で町政へどのような影響を与えるのか伺う。

問 町デジタル戦略における政策立案は行われるのか。

答

町長

今後、顕著化していく社会課題の解決や行政サービスの向上を目指すため戦略中に三つの視点を組み込んでいく。

視点1「移住・定住の促進」、視点2「人口減少・少子高齢化における先進モデルの構築」、視点3「町民が主役の協働のまちづくりのさらなる推進」。

この三つの視点に基づき、戦略の策定、ならびに令和2年度の先行事業の検討・実施を進めている。

問 今後の推進体制の構築はどのように行われていくのか。

答

町長

会津大学の准教授をアドバイザーに委嘱し、助言などをいただきながら、企画情報課が実務担当となる。

全課横断的にプロジェクトチームの構成員を配置し、今後のデジタル戦略の策定、施策の実施に向けて各課が主体的に関われる環境づくりを構築しながら進めていく。

問

人材育成が戦略策定においてポイントとなるがどのように進めていくのか。

答

企画情報課長

今後、戦略を進めるに当たって必要になる人材は、「新しい価値を生み出す人材」であると考えている。

戦略の中にも人材育成については明記しながら取り組んでいく。

問 町民への理解を深めるためにどのように進めていくのか。

答

企画情報課長

今後、デジタル化していくものについては、町民の暮らしの実情に合ったものか試行的な事業や実証実験なども行いながら進めていく。

また戦略策定と同時並行で以下の三つの先行事業を実施していく。

①どのような情報基盤からでもアクセスできるデータベースをつくること。②デマンドバスの予約体制をより活用しやすい内容とすること。③移住に向けて都市部の人材も参加する企画を予定している。



データ放送を活用した取り組みも先行事業で始まる

森林活用

問 森林資源活用による活性化は

答 さまざまな可能性を検討する

本町は面積の84パーセントが森林であり、豊富な森林資源を有している。この資源を有効に活用し、菌床の原料となるオガ粉や燃料用ペレット、チップなどの生産施設の整備を図り、新たな雇用の創出や移住・定住の促進により町の活性化につなげるべきと思うが、町の考えについて伺う。

問

会津の13市町村や民間で組織している会津地域森林資源活用事業推進協議会の取り組み状況は。

答

農林振興課長

会津地域森林資源活用事業推進協議会は、

会津地域において行政や公共的団体、民間企業などが一体となり、森林資源を活用した事業を推進することによって林業の活性化や木質バイオマスエネルギーによる環境負荷の低減、新たな産業の創出や地域経済の発展など、会津地域の振興を図るため、平成29年5月に設置された。

具体的には、関係する民間事業者などにより設立された会津森林活用機構株式会社为主体となり、喜多方市喜多の郷内「蔵の湯」への熱供給事業化に向け作業が進められている。

木質バイオマス燃料の

問

森林資源活用について町の考えは。

答

農林振興課長

森林管理制度を適切に運用しながら、木質バイオマス燃料や菌床オガ粉の生産施設を含む、さまざま可能性を検討し、町の豊富な森林資源を雇用創出や移住定住、町の活性化に結び付けられるよう検討していく。

か。

問

利活用計画はどのようなになっている

町は旧役場庁舎をはじめ、遊休施設の利活用、管理、解体などについて、どのように考えているか伺う。

答

企画情報課長

さまざまな課題はあるが、これらの遊休施設を資源として捉え、引き続き廃校等活用方針などに沿って、有効活用について検討を重ねていく。

問

遊休施設の管理については。

答

総務課長

現在本町には、旧役場庁舎をはじめ、合計20の遊休施設がある。

問

老朽化が進み危険な施設はないか。

答

総務課長

老朽化の進行により、危険な状態になる恐れのある施設については、計画的に解体を進める。

管理については、施設の修繕や周辺の草刈りなどを適宜行っており、適正な維持管理に努めているところである。

町の遊休施設

問 遊休施設の利活用は

答 資源として捉え有効活用を検討



有効活用が待たれる旧校舎

ふるさと応援寄附金

問 寄附金増の要因は

答 新たな取り組みが成功



多賀 剛 議員

問

全国的にふるさと応援寄附金の獲得競争が激化している中、本年度本町においては、好調に推移しているよう

である。

返礼率などの縛りが厳しくなり、多くの自治体が前年の実績を下回る状況が多い中、本町は大きく伸ばしているのは大変喜ばしいことである。

好調に推移している要因は何か。また何が功を奏して今後何をすることが重要と考えるのか伺う。

答

町長

ふるさと応援寄附金の実績は、8月末で967件、3249万7千



全国からの応援が増加中

円となっている。

好調の要因としては、

ポータルサイトを増やしたことにより、多くの寄附者の目に止まるようになったこと、返礼品の品種や数量を変えた定期便を追加したことなどで寄附金単価が上がってきている。

今後は、リピーター確保のため、返礼品に生産者の声などを同梱発送するほか、インターネットなどを活用して本町の魅力を発信し町の認知度アップを図っていく。寄附者の「志」に込められる町づくりを進めていく。

新型コロナウイルス問題

問 コロナ禍における対応は

答 各種施策にしっかりと取り組む

問

新型コロナウイルスの猛威が収まらない中、ついに会津地方にも感染者が確認された。

なお一層、身近な問題として感じられることである。

今年度はいろいろな集

会・イベント・式典などが中止や延期、縮小などへの対応をせざるを得ない状況が続いている。町の活性化、町内経済に与える影響は甚大である。コロナ禍における経済復興・観光振興などの取り組みはどうするのか。

また、感染者差別の対応はどうするのかを伺う。

答

町長

感染した方への差別や偏見・誹謗中傷は絶対に行わないようケーブルテレビやチラシ、ホー

ムページなどをお願いしてきた。

しかし、コロナと共存していく「ウィズコロナ」の中において、感染者が発生することは避けられない。それでも感染してしまった方に必要なのは

周囲の温かい支援であると考える。

コロナ禍において経済や観光については依然先行きが見通せない状況であるが、今後も各種支援策にしっかりと取り組む。



一人一人、検温チェックして検診開始

町職員採用

問 今後の採用方法と育成は

答 十分な採用方法の検討と職員指導を行う

問 町が採用したいと考える職員とはどのような人材か。

総務課長

答 「町や町民のことを常に考え、町を良くしようとする」ことに情熱のある人「町民に信頼され、町民の目線に立つて行動できる人」「町職員としての強い責任感のある人」

「困難な状況にも立ち向かい、チャレンジ精神と向上力がある人」「組織内のコミュニケーションを大切にし、組織の一員として円滑に業務を行う」

「町や町民のことを常に考え、町を良くしようとする」ことが出来る人」が町職員の人物像である。

問 専門職員の応募状況はどうなっているか。

総務課長

答 例年応募が少なく、応募がない年や採用決定後に辞退されるケースがあるなど、専門職の確保は難しい状況にある。

問 県外で働く町内出身者にも募集を行うってはどうか。

総務課長

答 町に帰ってきたいと考える方々に、町職員として受験していただけるような取り組みは町としてしっかりとしていきたい。

問 町長の考えとして、どのように町職員に指導していくのか。

町長

答 機会があるたびに職員には目線は町民目線より少し下に、さらに行動・行動・態度には特に注意してきた。

管理職にも職員教育の必要性を伝えており、将来の人材育成に向けてしっかり指導していきたい。

管理職にも職員教育の必要性を伝えており、将来の人材育成に向けてしっかり指導していきたい。



町の健康診断

問 受診者負担軽減は

答 受診者負担軽減につながる対策は維持

問

今年度の受診方法がよかったという声を聞いた。今年度の受診体制を継続し、さらなる受診者の負担軽減を検討してはどうか。

答

健康増進課長

今回実施した対策を検証した上で検討するが、受診者の負担軽減につながる対策や、受診しやすい環境については来年度にも実施し、さらに受診しやすい環境づくりに取り組む。

問 民間病院などを利用し、早くがんを

答

健康増進課長

見つけたい、健康でいたいと考える方には何らかの助成を行ってはどうか。現在、町の検査はがんの死亡率を下げることに証明されている検査を行っている。検査が国で認められるようであれば、当然町でも検討していきたい。



好評だった今年度の健診



秦 貞継 議員



上野恵美子 議員

乳幼児の健康

問 乳幼児期の基本的生活習慣の確立は

答 家庭との連携を図り進めている

問 認定こども園では、乳幼児期の「食」の重要性をどのように捉え、どのような食育を行っているか。

答 福祉介護課長
乳幼児期は、生涯の生活と健康に関わる「食」のスタートであり、心身の健全な発達に大きく関わる時期である。

このことから、こども園では「食を営む力」の基礎を培い「楽しく食べる」を食育目標としており、食習慣の形成や食べることの喜びや楽しさを養っている。

問 どのような点に留意して、給食を提供しているか。

答 福祉介護課長
食の安全のために、安全な食材を使い、旬の食材や地場産品を取り入れている。

食物アレルギーのある園児には、代替食・除去食を提供している。

問 食育において、家庭と地域社会との

連携は。

答 福祉介護課長
年長児の保護者を対象とした給食試食会で、親子と一緒に給食を楽しんでいる。

また、高齢者施設の皆さんと落花生やサツマイモの収穫体験を行っている。

乳児の「離乳食教室」では、食生活改善推進員に離乳食の調理をしていただいている。

問 乳幼児の睡眠習慣の確立のためにどのような取り組みをしているのか。

答 福祉介護課長
乳幼児の睡眠習慣は、家庭における生活リズムの影響を受けやすいため、家庭と連携を図る中で、睡眠の大切さや規則正しい生活リズムへの助言を行っている。

住宅整備

問 若者向け住宅の申し込み状況は

答 1次募集で12戸の申し込みがある

問 西会津町若者向け住宅（トゥジュール西会津）の入居申し込みの現状は。

答 企画情報課長
7月29日から募集を開始し、8月31日を第1次の締め切りとして募集を行った結果、募集16戸に対し12戸の申し込みがあった。

申し込みの内訳は、町外者が5戸、町内者が7戸。今後、書類審査を行い、入居の決定をする。

問 定住促進住宅および町営住宅の空き室の状況は。

答 企画情報課長
定住促進住宅は全42戸のうち空き室が3戸、所得により入居制限がある町営住宅は全102戸のうち空き室が11戸である。

完成した「トゥジュール西会津」
「トゥジュール」とはフランス語で「ずーっと」の意味



問 「西会津町総合計画」（第4次）にある子育て世代、シニア世代向けの住環境整備をどのように進めていくのか。

答 企画情報課長
各ライフステージに合った住まいを提案できるといった環境を整えていくことが重要だと考える。今後のニーズを見極めながら調査、検討していく。

議会 臨時会

第6回議会臨時会

工事請負契約の締結を可決

6月22日に議会臨時会が召集されました。町側から工事請負契約の締結1件の議案が提出され、原案のとおり可決しました。

請負契約の締結

■小規模多機能型居宅介護施設整備建築主体工事請負契約の締結

奥川地区に整備する小規模多機能型居宅介護施設の建築主体工事に係る請負契約。

工事の完了は、令和3年2月26日を予定。



整備が進む小規模多機能型居宅介護施設

【契約金額】

5731万円

【契約相手方】

株式会社伊勢亀工務店

議会 臨時会

7月28日に議会臨時会が召集されました。町側から補正予算2件の議案が提出され、全ての議案を原案のとおり可決しました。

補正予算

■一般会計補正予算

(第5次)

新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の第2次配分決定を受け、「新しい生活様式」を踏まえた感染症対策と地域経済の活性化を図るため、「感染拡大の防止」「雇用の維持と事業の継続」「経済活動の回復」「強靱な経済構造の構築」の取り組みを行うための経費1億8090万8千円を増額し、予算総額を71

新型コロナウイルス感染症対策の 主な事業

I. 感染拡大の防止

～地域の命を守る～

- 自動検温カメラ購入事業：304万2千円
- 感染予防物品購入事業（備蓄用）：658万8千円

II. 雇用の維持と事業の継続

～暮らしを支え、守り切る～

- 頑張る学生応援事業：1,380万円
- 雇用創出支援補助金：3,000万円
- 緊急雇用対策事業：1,053万9千円

III. 経済活動の回復

～地域経済を立て直す～

- ソバの生産販売農家支援事業：600万円
- スマート農業等導入支援事業：1,500万円
- 有害鳥獣駆除事業：276万7千円

IV. 強靱な経済構造の構築

～感染症に強い地域経済を～

- 庁舎内デジタル化推進事業：742万円
- ICT教育環境整備加速化事業：1,519万2千円

第7回議会臨時会

補正予算を可決

億7367万7千円とする。

■国民健康保険特別会計

補正予算（第3次）

新型コロナウイルス感

染症対策として、診療体制の充実を図るため549万1千円を増額し、予算総額を3億3539万円とする。

町民と議会との懇談会 中止のお知らせ

議会では、毎年11月に町民と議会との懇談会（議会報告会）を実施していましたが、今年は新型コロナウイルスの感染拡大を防止する観点から、中止することにしましたので、ご理解をお願いいたします。

この人にインタビュー

このコーナーでは、町内に移住し活躍されている方々を紹介します。
今回は、西会津町地域おこし協力隊として野沢民芸で活動されている中畑 和香奈さんです。

—実際に暮らしてみてもの感想は。

町並みの風景を水彩画で描くことが趣味なのですが、豊かな自然に日々感動しています。西会津町はとても素敵なものがたくさんある町だと感じています。また、これまで民俗学を学んだこともあり、地域ならではの文化が多く保たれている町で潜在的な資源量が多い町だと思います。

—中畑さんの活動内容は。

今は、来年の張り子の色付けをしています。簡単なようでとても難しい作業です。丸模様一つとっても納得して描けるようになるまでもう少し時間がかかりそうです。これまで多くの人によって作られてきた民芸品であってシンプルかつ完成された作品だと感じています。できれば協力隊期間のみならず、永く自分の腕を磨いていきたいと思っています。このような機会をいただけて感謝しています。

—町民の皆さんへ。

よく「西会津町には何もないよ！」と聞きますが、私からは見た西会津町は、むしろ魅力に溢れている町に見えます。誇れる資源をたくさん持っている町だと思います。

—ご協力ありがとうございました。今後でも活躍を期待しています。



プロフィール

住 所：西林東（尾野本）
趣 味：絵を描くこと（インスタグラムで紹介しています。QRコードを読み込んで、ぜひご覧ください。）

議会の動き

新型コロナウイルス感染症
対策について町へ要望

これから冬期にかけて、季節性インフルエンザと新型コロナウイルス感染症の同時流行が懸念されています。

症状も似ていることから医療機関の混乱を防ぐために「季節性インフル

エンザ予防接種経費の助成」について、追加の対策を講じるよう町に要望しました。

その結果、これまで助成の対象外とされていた19歳～64歳までの町民に対して、予防接種費用の2分の1相当額として25

00円を助成する補正予算が追加議案として提出され、全会一致で可決しました。

引き続き、議会としても新型コロナウイルス感染症について注視していきたいと考えています。



編集後記

少しずつ紅葉も始まり、稲刈りも終盤戦へと差し掛かっています。今年の夏は、長雨が続き日照不足が叫ばれ、強風や鳥獣被害も多かった年でもありました。それでも手塩にかけて育てた稲穂は黄金色となり、今年も町の味覚として多くの方に届けられます。

町の魅力を町外に発信する「ふるさと応援寄附金」。町の返礼品「一番人気は「お米」。今年は、例年の額をはるかに超える寄附が集まっています。コロナ禍で、古里に帰れない方には、待ちに待った古里の味となりそうです。

編集委員（広報分科会）

分科会長 伊藤 一男
副分科会長 猪俣 常三
委員 小柴 敬
委員 小林 雅弘
委員 上野恵美子
委員 荒海 正人

〒969-4495 福島県耶麻郡西会津町野沢
字下小屋上乙3308 電話 0241(45)4537
e-mail gikai@town.nishiaizu.fukushima.jp